

1月6日(日)

聖書

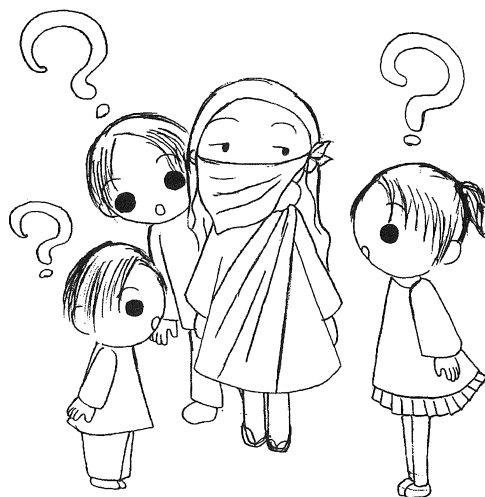
ヨハネ 1・19～28

聖句

あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立つておられる。 26節

「あなたはどなたですか?」「私はだれでしょう?」まるでクイズみたいですね。まずはバプテスマのヨハネの自己紹介です。あなただつたら、どいつふうに自己紹介しますか?「小学校4年生です。一人っ子です」とかね。ヨハネは、「私は荒野の声です」と自己紹介しました。その声で他己紹介をしたのです。それは「あなたがたの知らないかた―イエス様」の紹介でした。私たちがイエス様を知らない人たちに、紹介する声になりたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様のために道を備えたヨハネのことをもっと学んで、私もイエス様を紹介できますように。



聖書

ヨハネ 1・19～28

タイトル

荒野の声

暗唱聖句

あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立つておられる。

ヨハネ 1・26

目標

キリストのために道を備えたバプテスマのヨハネに学ぶ。

1月8日(火)

聖書

マタイ 3・1～3

聖句

「悔い改めよ、天国は近づいた」。2節

バプテスマのヨハネは、預言のとおり、イエス様より6か月早く、ザカリヤとエリサベツの子として誕生しました(ルカ1章)。そして「声」となつて叫びました。「一番大切な心の準備は何だつたのでしょうか?」「悔い改め」です。山のような高ぶつた心を低くしてもらつたため、谷のような引つ込み思案の心を引き上げてもらつて、平らな素直な心になっていただくためにです。私たちが天国へ迎え入れてくださる、救い主のおいでが近いから! 悔い改めなさいと。

いのちの祈り 天のお父様、私の心も天国のために備えようと共に、私もヨハネのように、悔い改めを大胆にすすめる子どもになりますように!

1月7日(月)

聖書

イザヤ 40・1～5

聖句

荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまつすぐにせよ。 3節

イザヤという預言者は、700年も前に、救い主イエス様がお生まれになることを預言しただけでなく、ここでは、イエス様のために道を備えたバプテスマのヨハネのことも、こんなにも早く預言しています。バプテスマのヨハネは人々の先頭に立つて、荒野や砂ばくに行つて道路工事をしたのかな?そうではありません。荒野やさばくのような人々の心が、救い主を素直にお迎えできるように、心の準備をするようにと、大声で叫んだのでした。

いのちの祈り 天のお父様、救い主がこの世に来られるための大切な準備は、心の準備であることがわかりました。備えさせてください。

1月10日(木)

聖書

マタイ 3・7～12

聖句

このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであらう。 11節

「わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない」(11節)と、ヨハネはとつてもへりくだった心で話します。それは、ふたりの使命のちがいです。ヨハネは水でバプテスマをさずけました。ところがメシヤは、水できよめられなかったものを、聖霊と火とできれいにきよめると言われています。ヨハネがへりくだってイエス様を紹介しているのは、当たり前ですね。私たちがイエス様の前にへりくだりましょう。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様の力あるお働きを知り、私もヨハネのように、心よりへりくだってあなたを紹介できますように。

1月9日(水)

聖書

マタイ 3・4～6

聖句

このヨハネは、らくだの毛ごろもを着物のみにし、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。 4節

バプテスマのヨハネの毎日の食事は「いなごと野蜜」ですって！スゴイですね。今日は、彼のファッションに注目しましょう。らくだの毛ごろもを着物にし、腰に皮の帯をしめていました。もしかして、冬にらくだの毛ごろもを着る人が今もいるかもしれないけれど、実はこれは特別なファッションでした。旧約の預言者エリヤと同じでしたよ。メシヤが来る前にエリヤをつかわすと神様がおっしゃった、私はその使いですと、ヨハネは服装であかししました。

いのちの祈り
天のお父様、ヨハネは着る物でもあかししました。私たちが神様を信じている者にふさわしくよそおわせてください。

1月12日(土)

聖書

ヨハネ 3・22～30

聖句

彼は必ず栄え、わたしは衰える。 30節

「先生！大変です。バプテスマを授けているのはただただだと思っていたら、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたの所に集まってきました」とヨハネの弟子たちが伝えた時、ヨハネは「うん、うん」と首を縦にふって言いました。「心配しなくてもいい。救い主なるお方は、どんどん栄えて行かれるのだから。そしてこの私はどんどんおとろえ、消えて行くんだよ」と。ヨハネの美しい謙そんな姿です。

いのちの祈り
天のお父様、あかし人ヨハネの心を知りました。私もこのような思いで、イエス様のことを伝えられますように。

1月11日(金)

聖書

ヨハネ 1・1～9

聖句

この人はあかしのためにきた。光にいてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。 7節

「すべての人を照すまことの光」(9節)として、クリスマスにこの世にいられたのが、救い主イエス様です。このまことの光であるイエス様のことをあかしするために生まれたのが、バプテスマのヨハネだったということです。「あなたの暗い心、罪でよごれた心、さびしい心、冷たい心を照らして、罪をゆるし、明るい、温かい心にしてくださるのは救い主イエス様ですよ!! 信じましょう!」とイエス様のことを伝え、聞いた人が信じるためでした。

いのちの祈り
天のお父様、バプテスマのヨハネのしたことは、とても大切なことでした。私もヨハネのように用いてください。

1月13日(日)

聖書

ヨハネ 1・29～34

聖句

見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

29節

「あの人は熊みたい。あの子は小ネズミみたい。イエス様は小羊みたいだったんだ！」という意味ではありません。「神の小羊」、しかも「世の罪を取り除く神の小羊」と、ヨハネが叫んだのには深い意味がありました。神様の前に罪をゆるしてもらえる一つの方法がありました。傷のない小羊の頭に手を置いて、罪を告白します。そしてその小羊が殺され、血を流して死ぬことによって罪がゆるされ清められるのです。イエス様の十字架の死をさしているのです。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様が「神の小羊」として十字架で血を流し、死んでくださったので、罪がゆるされることを感謝します。



聖書

ヨハネ 1・29～34

タイトル

神の小羊

暗唱聖句

見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

ヨハネ 1・29

目標

神の小羊としてのキリストを信じ仰ぐ。

1月15日(火)

聖書

イザヤ 53・1～12

聖句

ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。 7節

イエス様がお生まれになる70年も前に、預言者イザヤが、十字架にかかれるイエス様のことを預言しました。何の罪も犯さず、その口からのしりとか、あざけりとか、うそ、悪口など一言も出てなかったイエス様なのに、十字架につけられることになりました。そのお姿は、殺されるためにほふり場にひかれて行く小羊のよう、毛を切る者の前にだまっている羊のようだとイザヤは預言しました。そのとおり、イエス様は、私のために死んでくださいました。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様が、何の文句も言わないで、私の罪のために十字架にかかってくださったことを感謝します。

1月14日(月)

聖書

出エジプト 12・1～13

聖句

その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。 13節

イスラエルの人たちは430年という長い間、エジプトで奴隷として使われていましたが、それはエジプトでの最後の夜のできごとでした。「殺された小羊の血」が入口の二つの柱と、かまに塗られた家は、死の使いが過ぎ越して行き、助かったのです。が、そうでないエジプトの人々の家の中では、長子がバタバタ死にました！終わりのさばきの時、私たちを救って天国に入れてくださるのも、小羊なるイエス様の血のゆえなのです。

いのちの祈り
天のお父様、とても心のひきしまるできごとを学びました。イエス様の血だけが滅びから救うことを信じます。

1月17日(木)

聖書

I ペテロ 1・13～21

聖句

きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。19節

「こつちの方角に向けて家を建てたら、住む人が病気になるよ」「この日は、お祝いごとをしてはいけない悪い日だよ」「この名前の漢字の字数はよくない運命になるよ」なんていうことを聞いたことがありますか？こつちのうのを迷信とい、「先祖から伝えられてる、むなし生活を送らせるものです。こんなバカげたことから、私たちの心を全く自由にしてくれる力、それが、「きずも、しみもない小羊のような尊い血」です。主を信じる者には毎日が良い日です！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の尊い血の力が、私たちの生活を自由に、明るいものにしてくれることを信じていきます。

1月16日(水)

聖書

マタイ 1・18～25

聖句

その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。21節

あなたの名前は、いつ、だれに、どんな意味をもつてつけてもらったのでしょうか？聖書のみ言葉からだよ、というお友だちもいるでしょうね。愛と期待をこめて、付けられた名前でしょうか。生まれる少し前に決まったのか？それとも生まれて何日かしてつけたのか？イエス様のお名前は、10か月くらい前でした。しかも主の使いによって知らされました！それに、その意味は、「罪から救う者」という、重い重い意味のある名前でした。やっぱり特別ですね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様のお名前には、そんな深い意味がこめられていたのを知りました。心から感謝します。

1月19日(土)

聖書

黙示録 5・1～14

聖句

ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい。12節

愛の使徒と呼ばれたお弟子さんのヨハネは、ずいぶん長生きをしました。パトモスという島にいた時、神様が天を開いて、これから起るべきことを見せて、記録させたのです。ここに記されていることは、作り話ではありません。やがて必ず起ることなのです。天の御国に神様を礼拝する長老たちや御使いたちの賛美の中心は、「ほふられた小羊」つまり、十字架で死んでくださったイエス様です！この地上でも、ますます小羊なるイエス様を賛美しましょう。

いのちの祈り 天のお父様、こうして見ると、「神の小羊」なるイエス様こそが、歴史の中心であることがよくわかりました。心から主を賛美します。

1月18日(金)

聖書

I ヨハネ 3・1～7

聖句

彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない。5節

「彼」とはイエス様のことです。イエス様は罪を取り除くために、この世に来てくださったのでした。そして、イエス様には、一つも罪はありませんでした。しかも、ここには、罪を取り除いていただけるだけでなく、やがて、イエス様が再びこの地上に来られる時に、私たちがどうなるのか書かれています。私たちはイエス様に似る者となる！そのまことのお姿を見るから！と、こんな望みを心にいただいているのですから、清く歩みたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、どうしようもない罪を、イエス様だけが取り除いてくださって、イエス様のように清く歩ませてくださり感謝します。

1月20日(日)

聖書

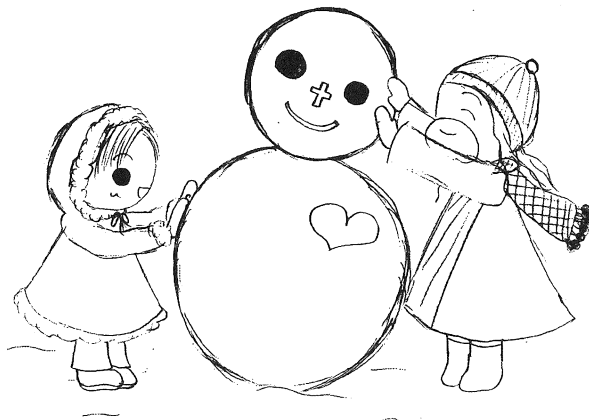
ルカ 3・21～22

聖句

あなたはわたしの愛する子、わたしの
心にかなう者である。 22節

洗礼式を見たことがありませんか?「はい、私も洗礼を受けています」という人もいますね。今日のところは、イエス様の洗礼式です。私たちの洗礼式とどこが違っているみたいですね。まるで、はどのような姿をとって、聖霊がイエス様のの上に下りました。私たちの洗礼式では、ほとんどが見えなかったですね。それに天からの声がありました。それはイエス様が本当に神様に愛されているひとりで、聖霊に満たされたお方ということ、神様が証しされたのです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の洗礼を通して、イエス様が本当に神様に愛されている、特別なお方だとよくわかりました。



聖書

ルカ 3・21～22

タイトル

イエス様の洗礼

暗唱聖句

あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。

ルカ 3・22

目標

神に愛されているキリストの洗礼の様子を知る。

1月22日(火)

聖書

マルコ 16・14～18

聖句

信じてバプテスマを受ける者は救われる。 16節

「私もバプテスマを受けられたらうれしいな」と思っているお友だちのために、一緒にバプテスマについて、み言葉から学ぶことにしましょう。今日のみ言葉は、復活されたイエス様が11人のお弟子さんたちに話されたことです。ここに、不信仰の人々は罪に定められるとあり、信じてバプテスマを受ける人々は救われるとあります。何から救われるのでしょうか? 犯してきた罪から、まわりの罪にさそわれる悪から、そして何より永遠のほろびから救われます。

いのちの祈り 天のお父様、世の中にも、また私の心の中にも悪や罪がいっぱいいます。このまま行くと滅びます。救ってください。

1月21日(月)

聖書

マタイ 3・13～17

聖句

すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。 15節

ヨルダン川で人々に洗礼をさすけていたバプテスマのヨハネのところに、イエス様がこられて、バプテスマを受けようとされました。「えっ?! イエス様、世の人々の罪を取り除く、罪のないあなたが、私からバプテスマを受けられるのですって?! 私の方こそお願いしなければなりません」とヨハネが言うと、イエス様は「いや、今は受けさせてください。ちゃんと正しいことは実行すべきなのです」と答えられ、ヨハネは言われたとおり、バプテスマをさすけました。

いのちの祈り 天のお父様、洗礼は、イエス様さえもきちんと受けられて、あなたの前に大切なことであることを知りました。

1月24日(木)

聖書

Iヨハネ1・5～10

聖句

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しい方であるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしをきよめて下さる。 9節

さて、では洗礼を受ける前にどうしてもしなければならぬ大切なことをしましょう。「罪の告白」つまり、悔い改めのお祈りです。教会の牧師先生に導いていただき、思い出せる罪の一つ一つを神様に言いあらわして、「神様ごめんなさい。おゆるしください」とお祈りしましょう。ああ、こんな罪深い私を愛して、私に代わってイエス様が死んでくださった！と心から感謝できます。

いのちの祈り 天のお父様、悔い改めは、はずかしいですが、罪をもったまま生きるのはもつとはずかしいことです。徹底的にできるよう助けてください。

1月23日(水)

聖書

ローマ10・5～13

聖句

人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。 10節

今までしてきた悪いことのために、何かばつを受けなければならぬのでしょうか。神様に喜んでいただけるような良い行いを、うんと励まなければならぬのでしょうか？いいえ、何よりも大事なことは、心に信じることです。神様が、イエス様を死人の中からよみがえらされたということをね。もちろんイエス様が私に代わって十字架で刑ばつを受けて、死んでくださったということとをね。そして、それを「信じます」と口で言いあらわすことによって救われるのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたに喜ばれることは何一つできず、罪ばかり犯してきた私のために、十字架があることを信じます。

1月26日(土)

聖書

エペソ2・1～10

聖句

私たちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。 10節

「ここには「信じる前」と、「信じた後」の姿が描かれていますね。本当に神様からの怒りをもろに受けてもあたり前だった私に、救われて、天上でイエス様と共にする、そんな者にしていただきました。それはただただ神様の大きな愛とあわれみと、恵み、そして、信じさせていただいた信仰によるのです。今や「神の作品」として造りかえられ、神様にも人々にも喜ばれる良い行いのできる子どもにさせていただいています。ハレルヤですね。

いのちの祈り 天のお父様、私も洗礼を受けて、神様の家族の仲間入りができるように導いてください。

1月25日(金)

聖書

IIコリント5・16～19

聖句

だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。 17節

「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と確信が与えられるでしょう。そして、今日のみ言葉のように、古い私、誘惑に負けて罪ばかり犯してきた私は、もう過ぎ去ってしまっていて、イエス様が心の中に住んでくださっている、新しい私に生れ変わったのだと信じる、ことができるのです。このことを「新生」と言います。あなたの心の誕生日、第二番目の誕生日となるのです。おめでとうございませう！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様を信じることにより、新しい私に造りかえていただくことができ、感謝します。

1月27日(日)

せいしよ
聖書
せいいく
聖句

マタイ4・1～11

主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ。 10節

イエス様だって、悪魔の誘惑にあわれたんだー
とちよつと驚きますよね。そして安心します。
悪魔は目に見えませんが、神の子たちを、信仰
を捨てて神様から離れさせようと、必死で働い
ていますから、「ご注意、ご注意！ そんな時、
イエス様がどんなふうにして、この悪魔に打ち勝
ち、退けられたかを知っておきたいです。それ
は一言で、「み言葉」です。み言葉による完全
な勝利でしたよ。「ただ神にのみ」真剣に仕えて
いく時、いつも勝利なのです。

いの祈り 天のお父様、いつ悪魔の誘惑を受けても、ちやんと「ノー！」と言えるように、心にみ言葉をたくわえさせてください。



せいしよ
聖書

マタイ4・1～11

タイトル

悪魔の試み

あんしよせいいく
暗唱聖句

主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ。 マタイ4・10

もく
目
ひょう
標

悪魔の試みの中に、キリストのみ言葉への信仰を見る。

1月29日(火)

せいしよ
聖書
せいいく
聖句

マタイ4・5～7

「主なるあなたの神を試みてはならない」とまた書いてある。 7節

次は宮の頂上です。神の子なのだったら、下へ飛びおりて「ごらんさい」という誘惑でした。しかも、悪魔も神様のみ言葉（詩篇91篇）を使つて誘惑してくるではありませんか！ところが、またしてもイエス様は、自分が誇るために、神の子としての力を使わせようとする巧みな誘惑をちゃんと見ぬいて、再びみ言葉（申命記）をもつて勝利しました。「と書いてある」と「また書いてある」というのが、イエス様の勝利の秘訣だったのですね。

いの祈り 天のお父様、自分で自まんしたり、得意にならせようとするのも悪魔のおとし穴だと知って、み言葉に従わせてください。

1月28日(月)

せいしよ
聖書
せいいく
聖句

マタイ4・1～4

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」と書いてある。 4節

一日中、何も食べなかった、なんてことありましたか？「一回でもごはんをぬくと、「ウワ、もうおなかペコペコだ」となるでしょう？イエス様は40日も食べなかったので、超ペコペコだったでしょう。「石に命令してパンにして食べたらどう？あなたが神の子なんだうたら」と悪魔に試みられたのです。もし、私だったら？でもイエス様は、「人は食べ物だけで生きるのではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きると、律法の書（申命記）にあります」と言つて勝ちました。

いの祈り 天のお父様、悪魔は弱い所につけこんで誘惑してきますが、イエス様のように、み言葉で勝つことができますように。

1月31日(木)

聖書

ルカ 4・1～13

聖句

悪魔はあらゆる試みをしつくして、一時イエスを離れた。 13節

このみ言葉の中には、気になる二文字があります。「一時」という言葉です。悪魔は、いろいろな方向から、これでもか、これでもか、今度はどうだとはかりにイエス様を試みましたが、み言葉でガードされていて、手も足も出ないことがわかりました。くやしけれど、と離れたましたが、それで終わりではなく、一時離れただけで、そのあとも、たびたび心がなることをじやましにきたのです。ゲッセマネや十字架にまでね！悪魔は手ごわく、しつこいのですよ。

いのちの祈り 天のお父様、とても大切なことを学びました。一生、油断することなく悪魔を退け続けて勝ちぬかせてください。

1月30日(水)

聖書

マタイ 4・8～11

聖句

サタンよ、退け。「主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と書いてある。 10節

非常に高い山とはどこだったのでしょうか。ヘルモン山かな。そこからエルサレムの町全体、さらには遠くの町々まで見えたことでしょう。大変栄えたはなやかで豊かな、富んだこの世界の姿でした。「もし一度でも私を拝めば、これらの栄えた町々すべてをあなたにあげよう」と悪魔は誘います。今度のイエス様のお答えは、強烈でした。「サタンよ、退け」と叫ばれています。神に従い悪魔に立ち向かうと、悪魔は逃げ去ると、ヤコブは手紙に書いています（ヤコブ 4・7）。

いのちの祈り 天のお父様、さまざまに誘惑を覚える時、サタンだとわかったら、「サタンよ、退け！」と立ち向かわせてください。

2月2日(土)

聖書

詩篇 119・9～16

聖句

若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。 9節

何才の人にも、いろんな形で誘惑がきますが、特に若い人々や子どもたちにとって、この世は誘惑のかたまりのようです。目から汚れたものが心に入り、耳からもたくさん心の心を汚す情報が入ってきます。本当にどうやってきよい道を歩き続けられるのかと叫びたいくらいひどいです。でも大丈夫！ たった一つ！「み言葉にしたがって、それを守る」この方法こそ最良最善、効果バツグンなのです。やっぱりイエス様の方法なんだから、わかってきますね。

いのちの祈り 天のお父様、罪にそまったこの世の中を、ただ聖なるあなたと共に、み言葉の光の中をきよく歩み続けさせてください。

2月1日(金)

聖書

ヤコブ 1・12～16

聖句

人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。 14節

おいしいおせんざいの香りがプーンと鼻に入ってきた、あずきがそんなに好きでない人には、全然誘惑にはなりません。ところが、おせんざい大好きの人には強力な誘惑になりますよ。誘惑に、その人の心にある欲がピーンと反応して、ついついゆらゆらと心が揺れて、まんまと悪魔の思うつぽに入って行ってしまふのです。神様は、だれをも誘惑しないし、悪の誘惑におちいつたりはされません。誘惑を覚えた時、心の中をのぞいてみましょう。欲はないですか？

いのちの祈り 天のお父様、誘惑には大きな力があります。死に至ることがないように、私の心をきよくして、誘惑からお守りください。

2月3日(日)

聖書

ヨハネ 2・1～11

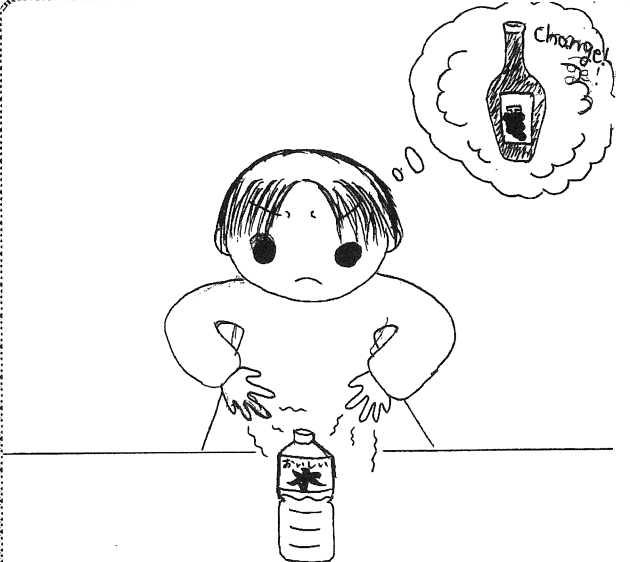
聖句

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。

11節

イエス様がこの地上でなされた最初の奇跡です。それは結婚式場でした。晴れやかな結婚のお祝いの席に、イエス様もイエス様のお母さんマリヤさんも、弟子たちも、みんなニコニコ顔で出席していました。結婚した二人はもろろ！とろろがお祝いの席に出す大切なぶどう酒がない！なくなつた！急にその顔は、かげつてしまいました。さすがに母さん。母マリヤは、そのことをイエス様に告げました。イエス様の言われるとおりにして、何と水がぶどう酒になりました！

いのちの祈り 天のお父様、そこにイエス様が招かれていてよかったです！神の子イエス様を、いつもお招きして栄光を見させてください。



せいしよ しょ 聖書 ヨハネ 2・1～11

タイトル 「カナの奇跡」

あんしよせい く 暗唱聖句 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。 ヨハネ 2・11

もく ひょう 目標 水をぶどう酒に変える奇跡を学ぶ。

2月5日(火)

聖書

ヨハネ 2・4～5

聖句

「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。 5節

そのときのイエス様の返事は、ちょっとがっかりしてしまいそうな言葉でした。「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありませんか。わたしの時は、まだきていません」と。「エーッ、そんな、今大変な時なんですよ！」「つて、マリヤはあわてたり、さわいだりしません。そこにいた僕たちに、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」と、どこまでもイエス様を信じ、きつと働いてくださると確信して言ったのです。

いのちの祈り 天のお父様、人にとってピンチの時も、イエス様の御名によってあなたに祈る時、きつとみわがしをしてくださると信じます。

2月4日(月)

聖書

ヨハネ 2・1～3

聖句

ぶどう酒がなくなつたので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなつてしまいました」。 3節

ピンチ！結婚式の、裏方で働いていた人たちは、みんな顔が青くなつたことでしょう。招かれた人々にとって一番の楽しみと喜びのもと、ぶどう酒がなくなつてしまふのですから！もうどんなに水でうすめても間に合わない、足りなくなつてしまつたのです。その時、母マリヤは、すぐにイエス様の所に行つて言いました、「ぶどう酒がなくなつてしまいました」と。イエス様にお願いするのが一番よいと、堅く信じていたからなのです。それは正解でした。

いのちの祈り 天のお父様、私はいつでもどんな時でも、何でも一番にイエス様にお願いすることが、一番よいとわかりました。

2月7日(木)

聖書
聖句

ヨハネ 2・9～11
水をくんだ僕たちは知っていた。

9 節

全くアップレな僕たちでした。彼らがくんで、もってきたものを、料理がしらがなめてみました。「オオッ！今まで味わったこともないほどおいしいぶどう酒だ！何と上等なぶどう酒なんだ！一体どこから手に入れたんだ？」と料理がしらは不思議な思いでいっぱいだったことでした。料理がしらの知らないなんて、おかしいですが、知っていたのは！水をくんだ僕たちでしたね！イエス様の言われるとおりにするスリルを十分味わったことでしょう。

いのちの祈り
天のお父様、み言葉に従っていく時、味の悪い水がおいしいぶどう酒にかわるような人生になることを信じます。

2月6日(水)

聖書
聖句

ヨハネ 2・6～8
イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。7節

さあ今度は、名もない僕たちの出番ですよ。マリヤが信じたとおりに、イエス様のり出して、僕たちに言いつけてくださいます。「かめに水をいっぱい入れなさい」と。100リットルくらい入る石の水がめが、6つもあつたのです。僕たちはハイハイと、口のところまでいっぱい水を入れました。すると、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」と言われます。「エー！水ですけど？」なんて考えず、彼らは言われたとおりに持って行きました。

いのちの祈り
天のお父様、この僕たちが、全く言われたとおりにしました。この従順には深く教えられチャレンジを受けます。

2月9日(土)

聖書
聖句

ヨハネ黙示録 19・6～10
「書き記せ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである。」

9 節

イエス様の最初のしるし(奇跡)はカナの「結婚式」でした。その結婚式は何とスペシャル(特別)なものになったことでしょう。では、イエス様の最後の奇跡って、何だと思えますか？それも「結婚式」なのです。それは天上における「小羊の婚宴」と呼ばれるものなのです。そこに招かれる人は幸せだとあります。そこに招かれる人は一体だれでしょう。世の罪を取り除く神の小羊を信じ、従ってきた人々たちです。その結婚式は、数え切れない人々たちになされた奇跡の集まりです！

いのちの祈り
天のお父様、やがて小羊の結婚式に、私も招いてくださることを信じます。主の花嫁としてふさわしく歩ませてください。

2月8日(金)

聖書
聖句

ヨハネ 2・9～11
あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました。

10 節

今まで味わったこともないような極上(超)おいしい()のぶどう酒に酔いしれるみたいに、それでいて、どこからきたのか知らなかった、この料理がしらは、花婿を呼んで言いました。「だれだって初めはよいぶどう酒を出しても、酔ってきたら悪いのを出すのに、何ということだ、あなたは一番おいしいぶどう酒を終わりでとっておかれましたな」。ほめられた花婿も何が何だかわかりません。神様が私たちの人生にしてくださることも、これと同じことが言えるのです。

いのちの祈り
天のお父様、あなたはあなたのみ言葉に従う者のために、終わりになっていくほど、よいものをあたえてくださることを感謝します。

2月10日(日)

聖書

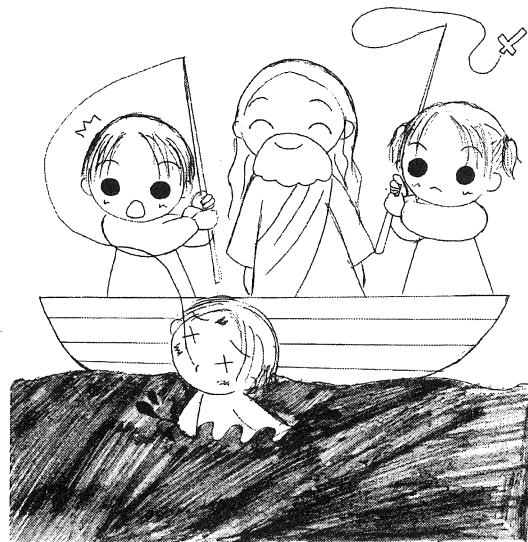
マタイ 4・18～22

聖句

わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。 19節

魚釣りの上手な人いますか？それほど上手とは言えないけれど、大好きな人もいるでしょう。今までどんな魚やシーフードを釣りましたか？いくら何でも「人間」を釣りあげた人はいないでしょう？イエス様がお弟子さんを召し出した時、「人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました。シモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネはすぐに舟も網も父も捨てて、イエス様に従っていきましました。そして人々をイエス様のもとに導き、天国の民とするために用いられたのです。

いのちの祈り 天のお父様、はじめに呼び出された弟子たちが、すべてを捨てて従って用いられたように、私もイエス様について行きたいです。



聖書

マタイ 4・18～22

タイトル

「弟子の召命」

暗唱聖句

わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。 マタイ 4・19

目標

弟子たちの召命の様子を知る。

2月12日(火)

聖書

ヨハネ 1・42

聖句

「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする」。 42節

うれしいことって、独りじめにしないで、みんなに教えてあげたい、聞いてほしいって思うでしょう。この時のアンデレがそうでした。まずはお兄さんのシモンを、イエス様のもとにつれて行ったのです。イエス様はシモンをじつと見つめて言われました。「あなたはシモンだ。これからは、あなたをケパ、つまりペテロ（岩）と呼ぶことにするよ」と。イエス様は、あなたは、今は普通の漁師だけれども、きつと大きく立派に育ててあげるよと約束されたのですね。

いのちの祈り 天のお父様、私も砂のように小さな子どもですが、イエス様についていくと、岩のようにしてくださると信じます。

2月11日(月)

聖書

ヨハネ 1・35～41

聖句

「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。 41節

愛の使徒となったヨハネは、初めの弟子たちとイエス様との感動的な出会いを記しています。バプテスマのヨハネが、「見よ、神の小羊」と言うのを聞いて、二人の弟子がイエス様について行きました。二人のうちの一人はアンデレでした。その夜、イエス様の泊まれる所に一緒に泊まったのです。キャンプでお友だちと教会にお泊まりして楽しいですよ。その一泊の間にアンデレは、「あ、イエス様はメシヤだ」って、心から信じられたのでした。

いのちの祈り 天のお父様、はじめてイエス様と出会ったアンデレの感動の心が伝わります。毎日、あなたと出会えますように！

2月14日(木)

聖書

ヨハネ 1・47～51

聖句

ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。
49節

ピリポからナザレのイエスのことを聞いたナタナエルは、見下げて「ナザレから、なんのよいものが出ようか」と言いました。ピリポはなお自信をもて言います、「来てみなさい」。イエス様は「自分に向かって歩いて来るナタナエルに、「あの人こそ本当のイスラエルだ」と言い、「ピリポが呼ぶ前にあなたが、いちじくの木の下のにいるのを見た」と言われました。ナタナエルはすっかり驚いて、「あなたこそ神の子、イスラエルの王様です」と叫びました。

いのちの祈り 天のお父様、すべてを知りつくしておられるイエス様こそ、神の子、また王様ですと、ナタナエルのように告白します。

2月13日(水)

聖書

ヨハネ 1・43～46

聖句

ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。
43節

さて、その次の日に、イエス様が出会ったのはピリポでした。ピリポもまたシモンとアンデレと同じ町、ベツサイダの人でした。イエス様はこのピリポに出会って、「わたしに従ってきなさい」と言われたのです。イエス様に、たったそれだけ言われただけでしたのに、ピリポは「この方こそ、モーセや預言者がしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスだ」とハッキリとわかったというのです。だから自信をもって、ナタナエルにそう言うことができました。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様のお姿と言葉は、ハッキリとご自分をあかししていたことが、本当によくわかりました。

2月16日(土)

聖書

ルカ 6・12～16

聖句

夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。13節

イエス様の特別な弟子12人は、どのようにして選ばれたのでしょうか。大切な人々を選ぶので、イエス様は、夜、全然寝ないで、神様にお祈りをしたのでした。こうするのを徹夜のお祈りと言います。わあ、大変！と思いませんか。お祈りが「おいねり」になって、そのまま朝まで寝てしまうのが、私たちかもしれませぬ！こうして12人の一人一人がイエス様のお祈りによって、神様から選ばれました。その人々は「使徒」と呼ばれるようになりました。

いのちの祈り 天のお父様、12人のお弟子さんたちは、イエス様の熱いお祈りで選ばれ、世の中につかわされたことがわかりました。

2月15日(金)

聖書

マタイ 9・9～13

聖句

わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。13節

ローマの手先のようにして、税金を取り立てる取税人たちは、みんなの嫌われ者でした。その取税人の一人がマタイという人でした。彼が収税所にすわっているのを見られたイエス様は、「わたしに従ってきなさい」と声をかけられました。すると、彼は立ちあがって、イエス様に従ったのでした。マタイは奇跡の一つのように、ここに記しています。罪人や取税人と食事をするイエス様を批判する人々に、「わたしは罪人を招くために来たのだ」と語られます。

いのちの祈り 天のお父様、罪人こそ、イエス様の働きのために、イエス様が招いていてくださるのだとわかり、感謝します。

2月17日(日)

せいしよ
聖書

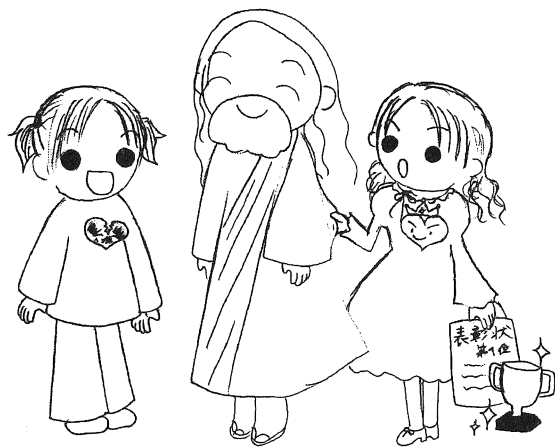
マタイ 5・1～12

せいこく
聖句

こころの貧しい人たちは、さいわいで
ある。天国は彼らのものである。3 節

イエス様は私たちに天国、神の国のことを教
えてくださいます。この世の罪に汚れた生活に
も、たくさんうれしい事や楽しみがありま
すが、それらは罪が与える一時的な楽しみで、
人を滅ぼすものが多いです。しかし、地上に
住んでいても、天国の空気を吸って、み言葉を
食べて生きる人の喜びはちがいます。「さいわ
い」とは、そばにいる人が、うらやましがる
ほどの幸せという意味です。まずは心低く、
神様の祝福を渴き求める人の幸せです。天国
が約束されています。

いの
祈り
天のお父様、普通に考えると、「え？これが幸
せ？」と思えるようなさいわいがあなたを信じる
者の幸せであることをしっかり学ばせてください。



せいしよ
聖書

マタイ 5・1～12

タイトル

「山上の説教」

あんしよせいこく
暗唱聖句

こころの貧しい人たちは、さいわ
いである。 マタイ 5・3

もく
目 標

神の国に生きる者の幸いを味わう。

2月19日(火)

せいしよ
聖書

マタイ 5・5

せいこく
聖句

柔和な人たちは、さいわいである。彼
らは地を受けつぐであろう。 5 節

世の中、やさしいだけじゃ、やっていけない！
と思いますか？ 聖書は、やっていきますよ、そ
して、それが祝福の道ですよと言っています。
実は「柔和な人」というのは、「一見」「やさし
い人」に見えますが、本当は、心の強い人だ
とわかります。イサクさんのこと覚えています
か？井戸を奪われた時、イサクは「争わな
かった」、つまり柔和でした。二度も三度もね。
そして、ついには柔和が勝利して、その地を神
様からもらいました。 柔和な人めざして！

いの
祈り
天のお父様、時々怒りっぽくなる私を助けてく
ださって、心強く、柔和な人になれますように、
導いてください。

2月18日(月)

せいしよ
聖書

マタイ 5・4

せいこく
聖句

悲しんでいる人たちは、さいわいであ
る。彼らは慰められるであろう。 4 節

悲しんでいることが、さいわいなんて、悲
しい時は、悲しいよと思いますね。どんな時、
悲しいのかな？しかられた時？おながすいた
時！？友だちにだまされた時？いろいろあります
ね。ここでイエス様が「悲しんでいる人」と言わ
れたのは、「自分の罪を悲しんでいる人」と言う
意味なのです。「私は何て悪い子なんだろう」
と悲しくつらくなる人のことです。本当はその
悲しみは、さいわいなのです。きつと神様から
の慰めがあります。素直におわびするとね。

いの
祈り
天のお父様、自分の罪を悲しみ、悔い改めて、
あなたにゆるされることは、本当に大きな慰めで
すから感謝します。

2月21日(木)

聖書

マタイ5・7

聖句

あわれみ深い人たちは、さいわいである。彼らはあわれみを受けるであろう。

7節

「かわいそうに…」って思ったことがありますか？迷子になつて泣いている小さい子とか、捨てられている小犬とか、小猫とか、道ばたで死んでしまっている小鳥とか見ると、「かわいそうに…」って思い、涙が出そうになるでしょう？他にも、いろいろ困っている人がいるとそう思い、何とか助けになれないかなって思います。そう思う人を、あわれみ深い人と言います。そのようにして他の人を助けてあげる人は、また同じように助けてもらえるのです。

いのちの祈り
天のお父様、困っている人を見たら、私の心をあわれみでいっぱいにして、すぐ助けの手をのばさせてください。

2月20日(水)

聖書

マタイ5・6

聖句

義に飢えかわいている人たちは、さいわいである。彼らは飽き足りようになるであろう。

6節

満腹になるまで、おいしいものを食べたり、飲んだりしたら、「もういい、もう何も入らないー」と言うでしょう。でもペコペコになかがすいて、のどがカラカラだったら、パクパク、ゴクゴクで、満タンになりますね。そのように、「義に飢えかわく」つまり、もつと神様のことを知りたい、イエス様のこともすぐ知りたい、聖書のことをもつと知りたい、読みたいという人たちはとても幸せです。きつとどんどん満たされていきます。

いのちの祈り
天のお父様、私の心も神様のこと、イエス様のこと、聖書のこと、教会のことをもつと知りたい思いにしてください。

2月23日(土)

聖書

マタイ5・9

聖句

平和をつくり出す人たちは、さいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう。

9節

「あの子がくると、いつもけんかになったり、大変なことになってしまつて困るよ」というのは、本当に困りますね。でも「あの子がくると、みんながうれしく楽しくなるよ。何かゴタゴタしたり、けんかムードでも、あの子がくると不思議に心がおだやかになつて、みんな仲良くなれるからすごいと思うよ」。こういう子のことを「ピースメーカー」「平和をつくり出す人」といって、そういう子は神の子と呼ばれるのです。平和をつくり出す神の子にされたいですね。

いのちの祈り
天のお父様、だれとでも仲良くして、みんなが仲良くしていけるように、平和をつくり出す子どもにしてください。

2月22日(金)

聖書

マタイ5・8

聖句

心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう。

8節

心というのは、「ロロ」変わるから心というそうです。こんなに変わりやすい、きたない心を清くしていただけるところは？そう、イエス様の十字架だけです。今まで犯してきた罪や、心の中のきたないものを心よりおわびし、吐き出す時、そしてイエス様の十字架が私の身代わりだと信じるなら、すべての罪、けがれがゆるされ、清められます。十字架のイエス様を心の目で見る人はさいわいです。さらに心清く、いつも目の前に神様を見つつ歩めますように。

いのちの祈り
天のお父様、私の心もイエス様の十字架の血で清くしてください。そして神様をいつも見ながら歩ませてください。

2月24日(日)

聖書

マタイ14・22～33

聖句

しっかりするのだ、わたしである。おそれることはない。 27節

サーフィン、水上スキー、かつよくて気持ちよさそうですね。見たこと、ありますか？もし足にスキーをはかないで水の上を走ったり、歩いてたりしたら？それって怪物！と思うでしょう？ところが、実は、イエス様がそれをされたのです。「海の上を歩いて、彼らの方へ行かれた」とあるではありませんか。弟子たちが驚き叫ぶ様子が見えるようです。「ゆうれいだ」とおそれて叫び声をあげたのです。「大丈夫、わたしだよ」と、イエス様はすぐに安心させました。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様がいろいろな方法で、弟子たちに近づいてくださったように、今も私と共にいてくださり感謝します。



聖書

マタイ 14・22～33

タイトル

「湖上の奇跡」

暗唱聖句

しっかりするのだ、わたしである。おそれることはない。マタイ14・27

目標

共におられるキリストへの信仰を養う。

2月26日(火)

聖書

マタイ14・14～27

聖句

「我なり、恐るな」。(しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない)の文語訳 27節

先に向こう岸へ行くようにと言われて舟を出した弟子たちでしたが、困ったことに逆風が吹いてきて、舟はなかなか向こう岸へ着きません。湖のまん中で、こぎ悩み、また波に悩まされている弟子たちを思い、イエス様はついに、海の上を歩いて助けにいかれました。「キヤーツ、ゆうれいだ」と叫び恐る弟子たちに、「我なり、恐るな」と声をかけられたのです。ちょっと古い訳のみ言葉ですが、短くて、力強く、覚えやすいのでもいいと思いませんか。

いのちの祈り 天のお父様、私が困っている時、今でもイエス様は困難の海を踏み越えてきて、「恐るな」と共にいてくださることを感謝いたします。

2月25日(月)

聖書

マタイ14・22～23

聖句

夕方になっても、ただひとりそこにおられた。 23節

5つのパンと2匹の魚で、男の人だけでも5千人もいた群衆の、お腹を満腹にした奇跡のあと、イエス様はその大群衆を解散させ、弟子たちは舟に乗りこませて、向こう岸へ先に行かせました。それは祈るうとして山に登るためでした。ひそかに、そと登りました。だれにもじやまされなくなかったのでしょうか。父なる神様との親しい、深い交わりを持つためでした。そして、その交わりは長く続いて、夕方になるまで続き、ただ一人夕方になるまでいました。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の愛の奇跡のうしろには、あなたとの深い交わりがあったことが、よくわかりました。

2月28日(木)

聖書
聖句

マタイ14・30～33
信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。

31節

まっすぐイエス様を見つづけて、歩けばよかったのですが、ペテロはふとイエス様から目をそらして、風を見てしまったのでした。「ウワ！大変！」「と思い、すっかり恐ろしくなってしまう、見る見るうちに、ブクブク沈んで、おぼれそうになり、思わずSOS、「主よ、お助けください」と叫んでしまいました。イエス様はすぐに手をおのばして、ペテロをつかみあげて言われました。「信仰の薄い者よ」と。どこまでも主を信じつづけさせてください。

いのちの祈り
天のお父様、どんな時でも、イエス様から目を離さず、信仰の日々をおくれるように、お守りくださるようお願いします。

2月27日(水)

聖書
聖句

マタイ14・28～29
主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとへ行かせてください。

28節

今まで恐ろしくてガタガタふるえていたのに、イエス様だとわかると、すぐにペテロの心は急に力がわいてきたのでしょうか。力というより、それは信仰でしたね。イエス様だったらきっと大丈夫、私にもイエス様のようにな水の上を歩かせていただける、とね！お願いするペテロをイエス様は招かれます。「おいでなさい」と。すごいことに、ペテロは舟からおりて、水の上を歩いて、イエス様のところへ行ったのでした！何という信仰でしょう。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様を信じる信仰が、どんなにか力あるものかよくわかります。私の信仰もお強めてください。

3月1日(土)

聖書
聖句

マルコ4・35～41
いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは。

41節

ガリラヤ湖のもう一つの奇跡を見ることにしましょう。夕方のごとき、イエス様は弟子たちに「向こう岸に渡ろう」と言われます。そこで群衆を残して、イエス様を乗せた舟ともう一その舟で湖を渡ろうとしました。すると激しい突風で、波が舟に入りこんで今にも沈没しそうです。なんとその中でイエス様はぐっすりとおねむっています！弟子たちの文句で目をさまし、起きて風をしかり、海には「静まれ、黙れ」と命じると、大なぎになりました。弟子たちは目をぱちくり！

いのちの祈り
天のお父様、ここでもこわがる弟子たちに、イエス様は「どうして信仰がないのか」と言われました。深い信仰をもたせてください。

2月29日(金)

聖書
聖句

マタイ14・34～36
そしてさわった者は皆いやされた。

36節

「うわさ」って、すごい早さで広まる不思議なものです。悪いのも、良いのもね。うわさを漢字で「風聞」とも書きます。風のたよりに聞くわけですね。イエス様のうわさは、強風に乗って広まっていったみたいですね。湖の上の奇跡でも、舟の中の人々は、「ほんとうに、あなたは神の子です」と礼拝しました。パンの奇跡や会堂つかさの娘のよみがえりなど、広まっていて、ゲネサレの人々はイエス様を知り、病人たちは上着をさわっていやされました。

いのちの祈り
天のお父様、奇跡をなされるイエス様を信じる者に力をあらわしてくださるイエス様を、心から感謝します。

3月2日(日)

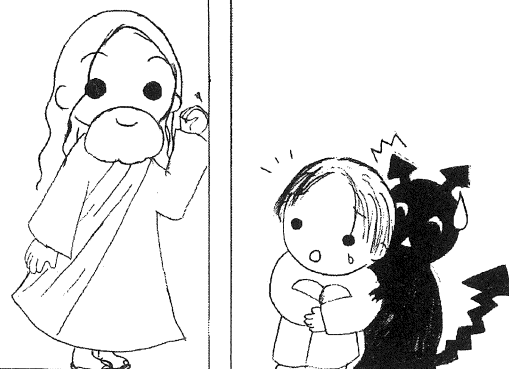
聖書
聖句

ルカ19・1～10

人の子がきたのは、失われたものを
ね出して救うためである。 10節

今までいろいろなくしたり、落としたり、失
ったことがあるでしょう？ 小さなボールペン一本
から、大きな高価なものまで。実は神様を信じ
ないで、神様から遠く離れている人は、神様の
目からは、「失われたもの」なのです。ザアカ
イもその中の一人でした。人の目から見ると、
取税人たちはローマの手下で罪人と見られ、し
かもザアカイはそのかしら、つまりトップだった
ので超人！でもイエス様の目には、とても高価
で尊い、失われたものの一人でした。

いのちの祈り
天のお父様、あなたから離れてほろびに向かう、
失われたものたちのために、救い主イエス様を送
ってください感謝します。



聖書

ルカ19・1～10

タイトル

「ザアカイ」

暗唱聖句

人の子がきたのは、失われたもの
をね出して救うためである。

ルカ19・10

目標

救い主としてこられたキリストの
愛を知る。

3月4日(火)

聖書
聖句

ルカ19・5～7

ザアカイよ、急いで下りてきなさい。
きょう、あなたの家に泊まることにし
ているから。 5節

おまけにザアカイは背が低かったので、イ
エス様を見るために、いちじく桑の木に登り
ました。きつと劣等感をかくそうとして、金持
ちになるように悪いとらたてをしたのでし
う。ところが、木の下から突然イエス様の声、
「ザアカイよ」。その日イエス様は、人々か
ら毛虫のようにきらわれていたザアカイを愛
して、お泊まりになりました。びっくりさ
よう天、ザアカイの心は喜びで張りさけそ
うになり、ころがるように木からおりてイエ
ス様を迎え入れました。

いのちの祈り
天のお父様、人々からは毛虫のようにきらわれ
ていたザアカイを、イエス様は愛してお泊まりに
なりました。感謝です。

3月3日(月)

聖書
聖句

ルカ19・1～4

ところが、そこにザアカイという名の
人がいた。この人は取税人のかしらで、
金持であつた。 2節

「人生は出会いで決まる」という、ちよ
うとかたい言葉だけど、聞いたことがあります
か？ だれと出会うかによって、その人の人生
がガラッと180度変わることを言っています。
イエス様はザアカイのことをよく知っておられ
て、きつと彼の町エリコをお通りになったにち
がいありません。ザアカイとは、日本名にす
ると「清くん」とか「正くん」になります。
けれども取税人のかしらで、悪い取り立てを
して金持ちになったザアカイの心は、とても
さびしかったのです。

いのちの祈り
天のお父様、ザアカイを訪ねられたイエス様が、
私の所にもおいでくださって、毎日導いてくだ
さり感謝します。

3月6日(木)

聖書

ルカ15・1～7

聖句

いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。 4節

ぶつぶつ、カニのようにつぶやく人たちを前に
イエス様は大切なたとえ話をお話しされました。
失われたものをたずね出すたとえ話でした。一
つ目は「羊」のさがしものです。100匹の羊を持
っている人がいて、もし、その中の1匹が迷い出
て、いなくなったとしたら…その人は、あと99
匹もいるからいいやと思うのでなく、99匹を野原
に残しておいて、いなくなった1匹をどんな困難
や危険をおかしてでも、きつと見つけるまではさ
がしますというたとえです。

いの祈り
天のお父様、あなたがつかわしてくださったイエス様こそ、良い羊飼いで、1匹を大切にさがしてくださるお方だと、よくわかりました。

3月5日(水)

聖書

ルカ19・8～10

聖句

イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから」。 9節

ザアカイの心は、イエス様の清く、温かい愛で、とかされてしまいました。ケチで、不正な取り立てをしていたザアカイが、名前のとおり、清く正しい心になっていた。ちやんと罪のつぐないをしようと、イエス様に申し出たのでした。財産の半分を貧しい人、不正な取り立て分は4倍にして返しますと！ザアカイは心にイエス様をお迎えして、救いに入れられました。まさにイエス様との出会いは、ザアカイの生き方を180度変えさせたすばらしいものでした。

いの祈り
天のお父様、失われていたザアカイと同じく、イエス様は、失われていた私をも見いだして救ってください感謝します。

3月8日(土)

聖書

ルカ15・11～32

聖句

「このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから」。それから祝宴がはじまった。24節

次のたとえ話は、一人のお父さんと、二人の息子のお話です。お父さんはさがしに行かなかつたけれど、目に見えない聖霊なる神様によって、悔い改めて帰ってきた弟、息子を、大喜びで、大歓迎します。全く何の罪も犯さなかった者のようにして！お兄さんの方はどうでしょうか。ずっとお父さんと一緒にいたのに、実は心はお父さんから遠く離れてしまっていたのです。このお兄さんはぶつぶつぶやく人たちをあらわしています。あなたはどちらなのかな？

いの祈り
天のお父様、いつも素直な悔い改めやすい心で、あなたのふところに安心して、見いだされた者にしてください。

3月7日(金)

聖書

ルカ15・8～10

聖句

それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう。 10節

ユダヤの女の人が、結婚の時のために備える、銀貨10枚のネックレスがあつたようです。今も女の子たちがビーズのネックレスやブレスレットを作るでしょうか？ビーズは細かくて安いけど、銀貨1枚は高価だし、とても大切なもの。その1枚をなくしたら女の人はあかりをつけて家中をはいて、はきまくり、見つけるまで注意深くさがします。見つけたら友だちを呼んで大喜びします。そのように、一人の人が悔い改めて、神のもとに帰るのは大きな喜びだということです。

いの祈り
天のお父様、10枚のうちの1枚のように、なくてはならない一人として、悔い改めて立ち帰るのを喜んでくださり感謝します。

3月9日(日)

せいしよ
聖書

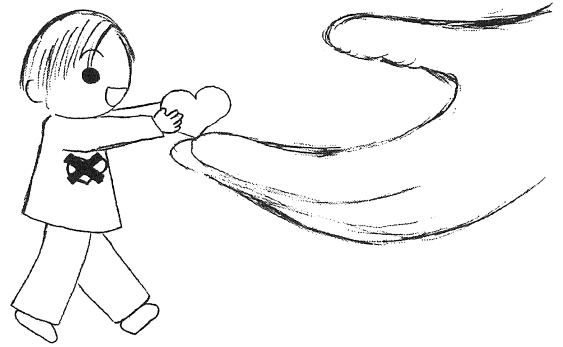
ルカ22・39～46

せいこく
聖句

しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。 42節

お祈りって、大好き？ ちよつと苦手？ とて
も楽しい？ いろいろですね。きょう、このゲツ
セマネの祈りは、とても苦しい、大切な祈
りでした。ゲツセマネというのは「油しぼり」
という意味があるくらいだから！ イエス様の
命をかけたお祈り、油がしぼられるような、
血の汗をしたたらせてのお祈りでした。それは、
私たちを罪と永遠のほろびから救うためのお
祈りでした。イエス様でさえ、ご自分の思いで
なく、神様のみこころをと祈られたのです。

いの祈り
天のお父様、イエス様は、もうすでにこのゲツ
セマネのお祈りにおいて十字架にかかることを受
け入れ、立ち上がられたのを知りました。



せいしよ
聖書

ルカ22・39～46

タイトル

「ゲツセマネ」

あんしやうせいこく
暗唱聖句

しかし、わたしの思いではなく、
みこころが成るようにしてくださ
い。 ルカ22・42

もく
目

神と人へのキリストの愛を味わう。

3月11日(火)

せいしよ
聖書

ルカ22・41～44

せいこく
聖句

そのとき、御使が天からあらわれてイ
エスを力づけた。 43節

御使いは、昔も今も、「仕える霊」として、
おられます（ヘブル1・14）。苦しいお祈りを
する中で、イエス様が流される汗が血のしたた
りのように、ポタポタと地に落ちたのです。
まさに苦しみ、もだえながら祈られるイエス様
のために、神様は仕える霊として、御使いを送
ってくださいました。そして御使いはイエス
様を力づけた、とあります。父なる神様のや
さしい心づかいでしたね。それほどまでに、私
の罪を負って苦しみながら祈り、十字架にむか
ってくださいました。

いの祈り
天のお父様、十字架にかからせまいと働きかけ
るやみの力、悪魔に、イエス様は御使いの力づけ
で勝利されたことを知りました。

3月10日(月)

せいしよ
聖書

ルカ22・39～40

せいこく
聖句

いつもの場所に置いてから、彼らに言
われた、「誘惑に陥らないように祈りな
さい」。 40節

「私にはね、私のお祈りの場所があるん
だ」と言うお友だちがいるかな？ それはち
ようどイエス様みたいで、とてもいいこと
ですね。「いつものように」「いつもの場所につ
いて」とありますから、イエス様には祈りの
習慣があり、祈りの場所があったのです。そ
こがオリブ山の中にあるゲツセマネと呼ば
れる所でした。ついでにきた3人の弟子たち、
ペテロ、ヤコブ、ヨハネに「誘惑に陥らないよ
うに祈りなさい」と言われました。

いの祈り
天のお父様、私もイエス様のように、祈りの場所
を決めて、いつもそこで祈るという良い習慣をつ
けたいです。

3月13日(木)

聖書
聖句

マタイ6・9～15

御国がきますように。みこころが天に
行われるとおりに、地にも行われますよ
うに。 10節

どんなふうにお祈りしていいのかわからな
い時、お祈りしたらいいのが、この「主の祈
り」です。イエス様が教えてくださった、お
祈りの模はんです。もう見ないでも、覚えて
いてお祈りできる人もたくさんいるでしょう？
その中に、「みこころが天に行われるとおりに、
地にも行われますように」とあります。よ
くよく考えたら大変なお祈りです。一日一日
ふり返つてみて、本当に今日一日、みこころが
天に行われるとおりに、私の内にも行われた
かしらと考えるとね！

祈り 天のお父様、主の祈りは本当に模はんのお祈り
です。ゆっくりとお祈りし、そのとおりに生きら
れるようにしてください。

3月12日(水)

聖書
聖句

ルカ22・45～46

「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らない
ように、起きて祈っていなさい」。46節

イエス様が、苦しいお祈りの中で、見事に
「みこころが成るようになってください」と勝利
して立ちあがり、弟子たちの所に行ってみる
と、なんとまあ、弟子たちは寝ているではあ
りませんか。「なあんだ、12人の中でもスベ
シャルな3人のお弟子さんが、苦しいお祈り
をしているイエス様の横で、寝るなんて」と
言わないでください。彼らは悲しみでいっぱ
いの心だったのですね。悲しくて泣き寝入り
したことある？人は弱いのです。

祈り 天のお父様、弟子たちも、私たちもとても弱い
です。イエス様にたよらなければ何一つできない
ことがわかります。

3月15日(土)

聖書
聖句

ヘブル10・1～10

神よ、わたしにつき、巻物の書物に書
いてあるとおりに、見よ、御旨を行うた
めにまいりました。 7節

メシヤであられるイエス様の預言の言葉、
詩篇40篇8節が、新約聖書のヘブル人への手
紙に引用されています。ここには2回も記さ
れているほど、重要なことなのですね。イエ
ス様の喜びはただ父なる神様の「みこころ。
御旨」を行うことだけ！そして、そのみこ
ろどおりに、ただ一度イエス様のお身体が
十字架の上にささげられたことによつて、罪か
らの救いのみ業が完成されました。信じる者
のすべての罪がゆるされると共に、きよめら
れる道が開かれたのです。

祈り 天のお父様、私もイエス様のように、みこころ
を喜び行わせてください。そこにあなたのすばら
しい計画が開くと信じます。

3月14日(金)

聖書
聖句

詩篇40・1～10

わが神よ、わたしはみこころを行うこ
とを喜びます。あなたのおきてはわた
しの心のうちにあります。 8節

旧約聖書、詩篇の中にダビデの歌があり
ます。そしてこの40篇の中には、ダビデの子
と呼ばれたイエス様についての預言の言葉が
あります。それがこの9、10節の言葉です。
ここには、「みこころを行うことを喜びます」
とあります。古い訳では、「みこころを行う
ことを楽しむ」ともあります。何て気持ち
のいい、喜ばしい生き方、神様のお心を満足
させる生き方でしょう。1～3節にあるよ
うに、イエス様を信じて救われた人もこのよ
うに言うことができるのです。

祈り 天のお父様、人として本当に楽しく喜ばしい歩
みとは、「みこころを行うこと」だということがわ
かりました。

3月16日(日)

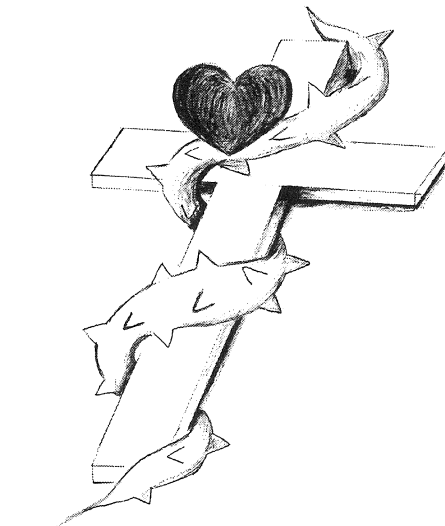
せいしよ
聖書
せいこく
聖句

ルカ23・32～38

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」 34節

のしり、あざけり、むち打ち、目かくしをして打って、「だれかあててみよう」など言っ
てバカにし、あげくの果て、十字架につけてしま
う。私たちだったら、この中の一つでもされたら
、「ゆるせな―い！ 私は何も悪いことしていないの
に」と叫びたくなるでしょう。ところがイエス様は
十字架につられて、一番に「赦してあげてくだ
さい」と祈られたのです。わからないでやった彼ら
でしようか？でも、わからずにしているから、と
完全なゆるしでした。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様が十字架で私のばつをも負
ってくださって、私の罪をすべてゆるしてくださ
ったことを信じます。



パーム・サンデー

ルカ23・32～38

せいしよ
聖書

タイトル

「十字架の愛」

あんしよせいこく
暗唱聖句

父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。 ルカ23・34

もく
目

神の極限の愛とゆるしを信じて受ける。

3月18日(火)

せいしよ
聖書
せいこく
聖句

ヨハネ19・25～27

「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。…「ごらんなさい。これはあなたの母です」。 26、27節

十字架の上で、身も心も張りさける痛み
の中で、イエス様は母マリヤのことを心配し
て、やさしく語られました。私たちにほと
もできないことです。ね。「痛いよー、苦し
いよー」としか言えないような状況の中な
のに！ヨハネはイエス様の胸に寄りそってすわ
るほど、イエス様の愛を全身に受け、また自
分のことを「主の愛した弟子」と言ったほど
でした。イエス様はこのヨハネに母マリヤをよ
ろしくと、たのみました。十字架による美
しい母子の誕生でした。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様がお母さんを思う思いに感動
します。私もお母さんを大切にできるようにして
ください。

3月17日(月)

せいしよ
聖書
せいこく
聖句

ルカ23・39～43

「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであ
ろう」。 43節

一番悪い犯罪人のつけられる真ん中の十字架
にイエス様、その両側の右と左に犯罪人たちが
つけられました。はじめ二人とも、「キリス
トなら、自分を救い、われわれも救え！」
と口ぎたなく、わめいていましたが、一人の
人はイエス様のお祈りを聞いてからでし
ょうか、心が変わりました。「この方はちがう、
イエス様、御国の権威をもっておいでになる
時には、私を思い出してください」と語る
犯罪人に、イエス様は、今日、共にパラダイ
スにいると言われました。

いのちの祈り
天のお父様、この一人の犯罪人は何のよいこと
もできませんでしたが、主を信じて、一瞬の内に
救われたことを知りました。

3月20日(木)

聖書

ヨハネ19・28～29

聖句

「わたしは、かわく。」

28節

「彼らはわたしの食物に毒を入れ、わたしのかわいた時に酢を飲ませました」と詩篇69篇21節というところにあります。イエス様の一生は、「聖書に書いてあるとおりになる」というのが、いつものことでした。詩篇を愛して、よく読まれていたのですね。人々はすいぶどう酒を含ませた海綿を口もとにさし出しました。イエス様の血は流れ、肉体も大変かわいていました。のどがかわいたことあるでしょうっのどのかわきと共に、神様を信じる人が起つてほしいとかわいておられたのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様のお身体のかわき、魂のかわきがよくわかる子どもにならせてください。

3月19日(水)

聖書

マタイ27・45～50

聖句

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」 46節

イエス様のこのさけびを聞く時、私を初めてして、すべての罪人たちは、「イエス様、ごめんなさい！それは、私の罪のためでした！」「申しわけありません！」と言っしかありません。そして、この言葉は十字架の上の七つの言葉の真ん中であつて、とても重要なのです。イエス様がこうさげられたということで、確かにイエス様が私や全人類の罪を負われ、神様からのろいとばつを受け、神様から切り離され、完全に捨てられたとの証明となるのです。

いの祈り 天のお父様、イエス様の十字架を信じる時、もう死ななくてよくなるために、イエス様が真の死を味わってくださり感謝します。

3月22日(土)

聖書

ルカ23・44～49

聖句

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」 46節

昼の12時ごろから全地は暗くなつて3時となり、聖所の幕が真ん中からさけたとあります。イエス様は6時間も十字架の上で苦しまれたのです。そして、ついに終わりがきて、声高くさげられました。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と。み業をなしとげられて、堂々と父なる神様のみにて霊をゆだねられたのです。百卒、長はこれを見て、「ほんとうに、この人は正しい人であつた」と言つて、神をあがめました。りっぱな終わりだつたのですね。

いの祈り 天のお父様、私たち信じる者たちも、地上の人生を終わる時、私の霊をみ手にゆだねられることを心より感謝します。

3月21日(金)

聖書

ヨハネ19・29、30

聖句

「すべてが終つた。」 30節

イエス様はさし出されたすいぶどう酒を受け、て、「すべてが終つた」と言われ、首をたれて息をひきとられました。「ああ、もうダメだ、わたしは死んでしまう。すべてがおしまいだ」という意味ではありません。この言葉の中にはすばらしい意味がこめられているのです。十字架につけた人々には決して考えもおよばないような！つまり「完了しました！」「成しとげました！ハレルヤ」です。ただ一度の、そして永遠の、救いのみ業の完成です。

いの祈り 天のお父様、このイエス様のお言葉が、十字架の上から、天にも全地にもひびきわたるような内容であることを知り、ハレルヤです！

3月23日(日)

聖書

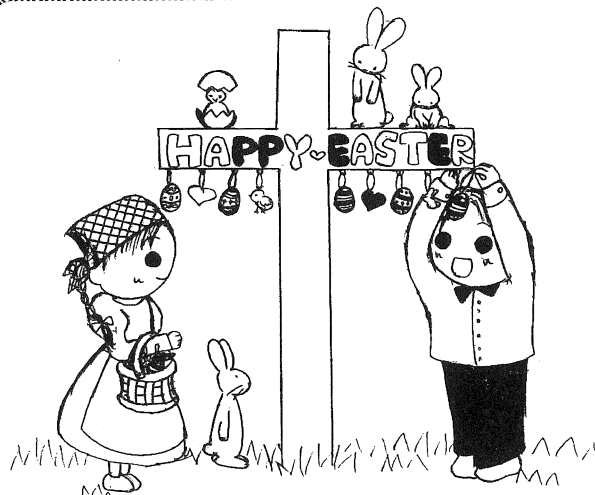
マタイ28・1～10

聖句

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。 6節

ハレルヤ！ハッピー・イースター！タとなり朝となったと、天地創造の初めから一日一日が刻まれ続けてきましたが、「この朝、この復活の朝」は、超特別な朝でした！イエス様を、だれよりも愛していたマグダラのマリヤと別のマリヤが、朝早くお墓に行くと、大地震！主の使いがお墓をふさいでいた石をころがし、その上にすわりました。そのまぶしかったこと！「十字架におかかりになったイエスは、もうここにはおられない。よみがえられた」。気が遠くなるような喜びのメッセージでした。

いのちの祈り
天のお父様、この朝以来、救い主イエス様は、死人の中よりよみがえられて、今も生きておられることを感謝します。



イースター

聖書

マタイ28・1～10

タイトル

「復活の喜び」

暗唱聖句

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。 マタイ28・6

目標

キリストの復活の事実こそ喜びの源泉と知る。

3月25日(火)

聖書

マタイ28・16、17

聖句

そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。 17節

女たちからの復活のグッド・ニュースを聞いた11人の弟子たちは、さそくガリラヤに行きました。そしてイエス様から行くように命じられていた山に登ったのです。一人一人の弟子たちの心の中はどんなだったでしょうね。ドキドキ、ワクワク、ヒヤヒヤ？そして、女たちの言葉にまちがいはなく、イエス様が出会ってくださいました。彼らは礼拝しました。ところが、「疑う者もいたのですって！どの弟子かな？わかるような気がしますよね。」

いのちの祈り
天のお父様、11人の弟子たちの中にさえ疑う者もいたのですから、復活がどんなにすごいことだったかわかります。

3月24日(月)

聖書

マタイ28・8～10

聖句

イエスは彼らに会って、「平安あれ」と言われたので、彼らに近寄りイエスのみ足をいだいて拝した。 9節

「イエス様は、死人の中からよみがえられたんですって！先にガリラヤへ行っておられて、そこでお会いできるなんて！！」女たちは、おそれを覚えながらも、口々にこう言いながら、大喜びで、急いで弟子たちに知らせようと走って行きました。地に足がつかないくらいに！すると、何ということでしょう、ガリラヤにつく前に、イエス様がおいでになり、「シャローム」と言うてくださったので、彼女たちは胸がいっぱいになる思いで礼拝をしました。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様のみ足をいだいて、真心こめて礼拝した女たちの心に、復活の喜びがあられていたのが伝わってきます。

3月27日(木)

聖書

詩篇16・1～4

聖句

わたしは主に言う、「あなたはわたしの主、あなたのほかにわたしの幸はない」と。
2節

イエス様の復活が預言されている、詩篇16篇から、「復活の喜び」を味わってみましょう。ダビデのミクタムの歌とあります。黄金の歌です。輝かしい復活の主にささげるのにふさわしいですね。今日、私の主、ご主人様はだれでしょう？ 私の心の王様はだれでしょう？ 私かな？ ゲーム機かな？ イエス様かな？ 「あなたのほかにわたしの幸はない」つまり、イエス様こそ私の宝、幸福、すべて！ ということです。復活された方ですものね。

いのちの祈り
天のお父様、私の心の王様、私の喜び、幸せがいつもイエス様であるように、どんな時にもお守りください。

3月26日(水)

聖書

マタイ28・18～20

聖句

わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。18節

「ああ、イエス様だ、復活されたイエス様だ」と、弟子たちはまじまじと見つめたことでしょうね。そのお口から喜ばしいお言葉を再び聞けるなんてと思いながら、注意深く耳をそばでたことでしょう。「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と聞いた時、本当にそうだ、死の力さえも打ち破つてよみがえられたイエス様の力は本物で、宇宙一だと思ひ、このイエス様が共にいてくださるとはなんとという喜びと思つたことでしょう。

いのちの祈り
天のお父様、最高最大の力を与えられておられるイエス様が、いつもわたしと共にいてくださることを覚えさせてください。

3月29日(土)

聖書

詩篇16・10、11

聖句

あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。
11節

死の力さえも打ち破つて、よみがえられたイエス様、ハレルヤ！ 暗く冷たいお墓も、イエス様をとどめておくことはできませんでした。ハレルヤ！ イエス様は死をほろぼし、永遠のいのちへの道を開いてくださいました。ハレルヤ！ だから、イエス様のみ前には満ちあふれる喜びがあります。イエス様のみ前には、とこしえまでも続くたくさんの楽しみがあるのです。こんなイエス様を信じるのができて、私は何て幸せ者なのでしょう。復活の主をたたえます。

いのちの祈り
天のお父様、本当にありがとうございます。この喜びを、たくさんのお友だちに伝えていくことができますように。

3月28日(金)

聖書

詩篇16・5～9

聖句

わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。
8節

「あそこの道を通る時は、こわい犬がいつもほえるんだ、だから、いつもお父さんのかげにかくれて歩くんだよ」というようなことがあるのかな？ お父さんが前や右にいてくれるとすごく安心。しかし、いつでもお父さんに一緒に行つてもらうわけにはいきませんね。そう！ だから、目には見えないけど、復活のイエス様が一緒なら安心ですね。私の前に、いつもイエス様がおられ、私の右にいて支えてくださるので、何がおこっても大丈夫と信じましょう。

いのちの祈り
天のお父様、毎日同じようっていて、本当は何が起きかわからない一日です。いつもあなたを私の目の前において、生活させてください。

3月30日(日)

聖書

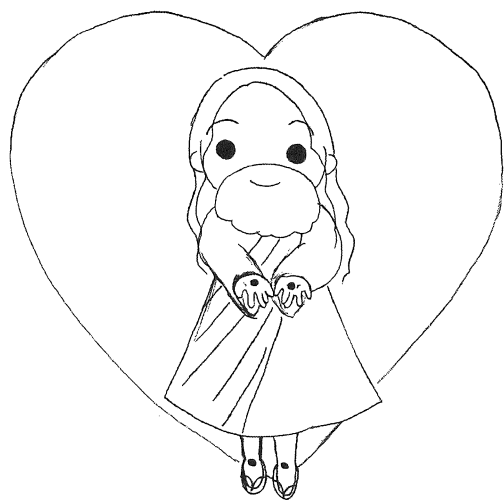
ヨハネ20・19～23

聖句

弟子たちは主を見て喜んだ。 20節

イエス様の弟子たちは、男なんだからきっと強いと思うでしょう？ところが、復活のニュースを聞いたにもかかわらず、その日の夕方、大男10人が、自分のいる所の戸をピッタリと閉めて、ガタガタおそれてふるえていたのです。そんな弟子たちの前に、戸が開まっているのに、イエス様が入って来られて、「シャローム！」と言われます。手とわきとを見せられて、「あ、イエス様だ」と弟子たちの心は平安で満たされ、喜びで顔もほころんだのです。

いのちの祈り
天のお父様、弟子たちも人間。人は弱いですが、でもイエス様はよくご存じで、責めたりせず、喜びを与えてくださり感謝です。



聖書

ヨハネ20・19～23

タイトル

「復活の夕」

暗唱聖句

弟子たちは主を見て喜んだ。

ヨハネ20・20

目標

復活の主に出会う喜びに満たされる。

4月1日(火)

聖書

使徒行伝9・1～9

聖句

わたしは、あなたが迫害しているイエスである。 5節

復活の主とお会いして、深い深い喜びの世界に招き入れられた、もう一人のお弟子さんのことを学びましょう。その名はサウロ。実はクリスチャンたちをつかまえに道を急いでいたのですが、突然天から光がさして、彼をめぐり照らし、声がしました。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」。クリスチャンを迫害していたと思っていたら、実は復活のキリストを迫害していたのです。

いのちの祈り
天のお父様、サウロがクリスチャンを迫害していると思っていましたが、実はイエス様を迫害していることを知りました。

3月31日(月)

聖書

ヨハネ20・21～23

聖句

安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす。 21節

弟子たちは、自分たちがユダヤ人をおそれて戸を閉じてかくれていたことを、はずかしく思えたかもしれません。イエス様はちゃんと復活しておられるのを聞いていたのに。驚いたことに、イエス様はまた言われます。「安心してなさい。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもあなたがたをつかわす」と。そして、「聖霊を受けよ」と息を吹きかけてくださるではありませんか。イエス様のようにつかわされる?! 弟子たちの心には、新しい喜びが満ちたことでしょう。

いのちの祈り
天のお父様、やっぱり、復活のイエス様にお会いすると、生き生きして、喜びに満たされることがよくわかります。

4月3日(木)

せいしよ
聖書

しとぎょうでん 使徒行伝 9・17~22

せいいく
聖句

サウロの目から、うろこのようなものが落ちて、元どおり見えるようになった。
18節

「わたしを選んだ、わたしの名を伝える器だ」との神様のお言葉に、アナニヤは信じて出かけて行って、その家に入りました。手をサウロの上において言いました。「兄弟サウロ、あなたが途中で出会った主イエスは、あなたが再び見えるようになるために、聖霊に満たされるために、わたしをつかわされました」と。すると不思議や不思議、サウロの目からうろこのようなものが落ちて、見えるようになりました。新しい復活の主の証人の誕生でした。

いの
祈り

てん 天のお父様、サウロは体の目も、心の目も、霊の目もハッキリ開かれました。私のすべての目をしっかり開いてください。

4月2日(水)

せいしよ
聖書

しとぎょうでん 使徒行伝 9・10~16

せいいく
聖句

かれ 彼はいま祈っている。

せつ
11節

もう一人の、神様に信頼されていた弟子のアナニヤがサウロのもとにつかわされることになりました。神様はアナニヤに言われます。「ユダの家でサウロというタルソ人を尋ねなさい。彼は今祈っている。アナニヤという人が来てくれるのを幻で見て待つている」と。アナニヤのおどろき。そう、だれだっておどろくし、信じられないでしょう。ところがサウロは心の目が大きく開かれ180度心が変わりました。3日間のうちに、大使徒につくり変えられたのです。

いの
祈り

てん 天のお父様、復活の主に出会うことは、喜び以上の、命そのものということを経験し、感謝します。

4月5日(土)

せいしよ
聖書

I コリント 15・50~58

せいいく
聖句

ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらせられ、わたしたちは変えられるのである。
52節

復活のキリストと出会い、キリストを信じ救われ、パウロのように、ただ神の恵みによつて生かされる、クリスチャンのクライマックスの恵みをパウロは記します。それは、キリストを信じる者が、やがてキリストが再びこの地上に來られる時、キリストと同じようによみがえらるということです。まずは空中に來られるのですが、その時、死人はくちない者によみがえらせられ、復活栄光の身体にまたたく間に変えられるのです。喜びのきわみとしかいようがありません。

いの
祈り

てん 天のお父様、復活の喜びの頂点を今から心に思い描きながら、あなたの恵みによって、精一ぱい生きられますように！

4月4日(金)

せいしよ
聖書

I コリント 15・1~11

せいいく
聖句

最後に、いわば、月足らずに生れたうなわたしにも、現れたのである。
8節

これはパウロ（もとサウロ）がコリントの教会にあてて書いた手紙です。復活の章と言われるこの章の中で、パウロは、復活されたキリストが12弟子や500人以上の弟子たちに現れ、最後に、自分にも現れてくださったと記しています。教会の迫害者だったので、使徒の中でも一番小さい者、使徒と呼ばれる値打ちのないものとへりくだって記します。そして、すべては「神の恵み」と、パウロはこの神の恵みに命の限りおこたえて、福音を伝え満たして行きます。

いの
祈り

てん 天のお父様、復活の事実は何とダイナミックでしょう。大迫害者を大使徒に変え、恵みに生かす力と知りました。